

平成20年度食品の安全性に関する有害化学物質サーベイランス・モニタリング年次計画(案)

(サーベイランス)

危害要因	調査対象 食品群・飼料	中期計画に おける位置付け	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	分析法		19年度実 績	平成20年 度分析予 定点数	備考	
					方法	妥当性確 認の有無				
総ヒ素	水産物	優先度B サーベイランス	海藻類に 含まれる 総ヒ素の 濃度分布 の把握	乾燥ひじき	ケルダール プラスコ分 解を行った 後、水素化 物還元原子 吸光法 (AOAC法)	○	120	120	H18、H19のデータ を現在解析しており、その傾向から対 象及びサンプル数 を決定。	
				水戻したひじき			30	0		
				のり			50	0		
				こんぶ			50	100		
				わかめ			50	0		
				ひじきの水戻しに用い た水			50	50		
	飼料	優先度B サーベイランス	基準値改 正に伴う 汚染実態 調査のた めのデー タ収集	稲わら(国産)	原子吸光法 (飼料分析 基準)	○		200		
	無機ヒ素	水産物	優先度B サーベイランス	海藻類に 含まれる 無機ヒ素 の濃度分 布の把握	乾燥ひじき	硝酸抽出、 HPLC－ICP 質量分析法	○	120	120	H18、H19のデータ を現在解析しており、その傾向から対 象及びサンプル数 を決定。
					水戻したひじき			30	0	
					のり			50	0	
こんぶ					50			0		
わかめ					50			0		
ひじきの水戻しに用い た水					50			50		
ダイオキ シン類(コ プラナー PCBを含 む)	農産物	優先度A サーベイランス	排出抑制 対策に伴 うダイオ キシン類 濃度の経 年変化を 把握	米	GC/MS法	○	20	0	H20は実施せず(畜 産物と交互に実 施)。	
				麦類			10			
				大豆			11			
				野菜			16			
				果物			18			
				茶			5			
				畜産物			優先度A サーベイランス			排出抑制 対策に伴 うダイオ キシン類 濃度の経 年変化を 把握
	チーズ	30	30							
	牛肉(国産)	40	40							
	牛肉(輸入)	20	0							
	豚肉	30	30							
	鶏肉	30	30							
	鶏卵(全卵)	30	30							
	乾燥卵黄	30	0							
	乾燥卵白	30	0							
	水産物	優先度A サーベイランス	排出抑制 対策に伴 うダイオ キシン類 濃度の経 年変化を 把握		このしろ	GC/MS法		○	0	
				すずき	30					
				たちうお	30					
				かたくちいわし	30					
				ほっけ	30					
				まさば	30					
				かんばち	10		0			
				ぶり(天然)	10					
				ぶり(養殖)	10					
				うなぎ(養殖)	10					
				べにずわいがに	10					
				飼料	優先度A サーベイランス				排出抑制 対策に伴 うダイオ キシン類 濃度の経 年変化を 把握	動物性油脂
	魚油	10	10							
	魚粉等	10	10							

危害要因	調査対象 食品群・飼料	中期計画に おける位置付け	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	分析法		19年度実 績	平成20年 度分析予 定点数	備考
					方法	妥当性確 認の有無			
メチル水 銀	水産物	優先度B サーベイランス	魚介類中 の蓄積実 態を把握	キハダ	還元気化原 子吸光法 (総水銀)、 ECD検出器 付きGC(メ チル水銀)	○	100	20	H19～H21の3ヶ年 で調査を実施。
				クロマグロ(天然)			60	30	
				クロマグロ(畜養)			90	15	
				ビンナガ			105	15	
				ミナミマグロ(天然)			0	60	
				ミナミマグロ(畜養)			0	50	
				メバチ			53	37	
				クロカジキ			98	50	
				マカジキ			0	60	
				メカジキ			83	37	
				カツオ			0	60	
				スケソウダラ			0	60	
				キンメダイ			84	36	
				マダラ			0	60	
				サメ類(ヨシキリザメ)			0	90	
DON(テ オキシバレ ノール) NIV(ニバレ ノール)	農産物	優先度A サーベイランス	汚染の全 国的な状 況及び年 次変動の 把握並び に平年値 の推定	小麦	GC-MS法 (飼料分析 法)	○	100(国産)	120(国産)	大麦についても統 計解析に耐えるよ う、サンプル数を増 加。
			大麦	10(国産)			100(国産)		
	加工食品	-	加工食品 の濃度分 布の把握 及び摂取 量の推定	パン類	LC-MS法	○	100 (国産小麦 100%:50点)	0	
				うどん類			120 (国産小麦 100%:650点)		
				小麦粉	LC-MS法	○	0	100 (国産50)	
			加工食品 の汚染実 態を種類 ごとに把 握し、実 態調査等 の必要性 を検討	中華めん類	LC-MS法	×	50 (国産小麦 100%:20点)	0	
				即席中華めん類			20		
				パスタ類			20		
				ビスケット類			20 (国産小麦 100%:10点)		
				ビール	LC-MS法	○	0	20	
				麦茶用麦				20	
				麦茶				20	
				しょうゆ				20	
				みそ				20	
			3-アセチル DON 15-アセチル DON	農産物	-	①汚染の 全国的な 状況の把 握 ②DON 含有量と の相関を 確認	小麦	GC-MS法 (飼料分析 法)	
大麦	10	100(国産)							

危害要因	調査対象 食品群・飼料	中期計画に おける位置付け	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	分析法		19年度実 績	平成20年 度分析予 定点数	備考	
					方法	妥当性確 認の有無				
オクラトキ シンA	農産物	優先度A サーベイランス	汚染の全 国的な状 況及び年 次変動の 把握並び に平年値 の推定	米	LC-MS法	○	100	100(国産)		
				小麦			100	100(国産)		
			予備調査 を実施 し、実態 調査の必 要性を検 討	大麦	LC-MS法	○	0	20(国産)		
				そば				20(国産)		
				ハトムギ		×		10(国産)		
				あわ				10(国産)		
				ひえ				10(国産)		
				きび				10(国産)		
	飼料	優先度A サーベイランス	・年次変 動の把握 ・基準値 設定のた めのデー タ収集	配合飼料	LC又はLC- MS法 (飼料分析 基準)	○	50	60		
				主要穀類等			50	40		
ゼアラレノン	農産物	優先度A サーベイランス	汚染の全 国的な状 況及び年 次変動の 把握並び に平年値 の推定	小麦	LC-MS法 (飼料分析 法)	○	100	120		
アクリル アミド	加工食品	優先度A サーベイランス	小麦粉を 高温で焙 煎し製造 する食品 の汚染実 態を把握 するため 予備調査 を実施 し、実態 調査等の 必要性を 検討	固形調味料(ルウ)の うち以下のもの	誘導体化 GC-MC法	×		0		
				カレー			80			
				シチュー			10			
				ハヤシ			10			
			調理缶瓶詰及びレトル トパウチ食品のうち以 下のもの	調理缶瓶詰及びレトル トパウチ食品のうち以 下のもの	誘導体化 GC-MC法	×		0		
				カレー			80			
				シチュー			10			
				ハヤシ			10			
			加工食品 中の含有 実態に関 する予備 調査	含蜜糖 (黒砂糖、ブラウンシュ ガー、和三盆、再製 糖)	GC/MS法	×	0	50		別途実施中の調査 研究により、含有濃 度が高く、当該食品 からの摂取寄与が 高い可能性が示唆 されたため調査

危害要因	調査対象 食品群・飼料	中期計画に おける位置付け	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	分析法		19年度実 績	平成20年 度分析予 定点数	備考
					方法	妥当性確 認の有無			
アクリル アミド (前駆体 の遊離ア スパラギ ン、還元 糖を同時 に分析)	農産物/ 調理食品	優先度A サーベイランス	保存方 法、前処 理方法、 加熱方法 の違いが アクリル アミド生 成に及ぼ す影響を 調査	もやし	アクリルアミ ド(GC/MS 法)	○ (Single)	20	0	サーベイランス以外 の枠組みで、継続し て調査研究を実施 する予定
				ピーマン			20	0	
				アスパラガス			20	0	
				さやまめ			20	0	
				さやえんどう			20	0	
				かぼちゃ			20	0	
				たまねぎ			20	0	
				なす			20	0	
				きゃべつ			20	0	
				ブロッコリー			20	0	
PAH	加工食品	優先度A サーベイランス	燻製工程 を含む加 工食品中 の含有実 態に関する 予備調査	かつお削りぶし/かつ おぶし削りぶし(さばぶ し、まぐろ節等も含 む。)	GC/MS法	○ single	0	50	別途実施中の調査 研究により、含有濃 度が高く、当該食品 からの摂取寄与が 高い可能性が示唆 されたため調査 (JECFAのモニタリ ング対象となっている PAHについて分 析)
				調味料類(風味原料と して削りぶしを含むも の)			0	50	
3-MCPD /3- MCPDエ ステル	加工食品	優先度A サーベイランス	加工食品 (特に油 脂含有量 の多いも の)中の 含有実態 に関する 予備調査	食用植物油脂(食用調 理油等の加工油脂を 含む。)	GC/MS法	×	0	50	第67回JECFAにお いて、3-MCPDエス テルに関するデー タを収集するよう 勧告されており、 再評価が予定され ていることから調 査
				乳幼児用調整乳			0	20	
				魚類(ニシン科、カタ クチイワシ科)			0	30	

危害要因	調査対象 食品群・飼料	中期計画に おける位置付け	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	分析法		19年度実 績	平成20年 度分析予 定点数	備考
					方法	妥当性確 認の有無			
フラン	加工食品	優先度B サーベイランス	加工食品 (特に多 価不飽和 脂肪酸含 有量が多 いもの) 中の含有 実態に関 する予備 調査	水産物缶詰	GC/MS法 (US FDA)	○ (Single)	0	20	JECFAで優先的に リスク評価を行うこ とが決定しているた め、含有実態につ いて調査(年末まで に終了し、データを 提出予定)
				塩干・塩蔵魚介類			0	20	
				素干・煮干魚介類			0	20	
				魚介練り製品			0	20	
				農産物缶詰・瓶詰(大豆)			2	10	
				みそ(豆みそ以外)			27	0	
				豆みそ			3	10	
				納豆			0	30	
				油揚げ／厚揚げ			0	30	
				豆腐			0	30	
				豆乳			0	10	
				麦茶(抽出液)			2	10	
				ほうじ茶(抽出液)			0	10	
				コーヒー(缶飲料)			50	0	
				コーヒー(缶飲料以外)			30	0	
				コーヒー(抽出液、 ファーストフード店等で サンプリング)			0	30	
				みりん風調味料、発酵 調味料			0	10	
				野菜缶詰			18	0	
				果実缶詰			12	0	
				カレー缶詰			5	0	
				シチュー缶詰			5	0	
				ミートソース缶詰			5	0	
				食肉野菜煮缶詰			5	0	
				スープ缶詰			10	0	
				レトルト食品(カレー)			50	0	
				レトルト食品(シチュー)			5	0	
				レトルト食品(ハヤシ)			5	0	
				レトルト食品(スープ)			10	0	
				レトルト食品(パスタ ソース)			20	0	
				レトルト食品(どんぶりの もの)			10	0	
				ベビーフード(レトルト 食品)			40	0	
				ベビーフード(瓶詰)			40	0	
				ベビーフード(飲料)			20	0	
				茶類(缶飲料)			15	0	
				茶類(缶飲料以外)			15	0	
				野菜飲料(缶飲料)			15	0	
				野菜飲料(缶飲料以 外)			15	0	
				しょうゆ			30	0	
				めんつゆ			20	0	
				調味料類			20	0	

(モニタリング)

危害要因	調査対象 食品群・飼料	中期計画に おける位置付け	調査の 趣旨	具体的な 調査対象品目	分析法		19年度実 績	平成20年 度分析予 定点数	備考
					方法	妥当性確 認の有無			
カドミウム	農産物	優先度A モニタリング	低減対策 の効果確 認	米	原子吸光法 ICP-MS法	○	1,065	1,200	
	飼料	優先度A モニタリング	違反品の 回収及び 基準値の 見直し	配合飼料	原子吸光法 (飼料分析 基準)	○	140	140	
				魚粉等			60	60	
アフラトキ シン	飼料	優先度A モニタリング	違反品の 回収、高 汚染時の アラート 発出及び 基準値の 見直し	配合飼料	LC、LC-MS 又はLC- MS/MS法 (飼料分析 基準)	○	300	300	
				主要穀類等(とうもろこ しを含む)			50	50	
				その他の飼料原料			100	100	
ゼアラレ ン	飼料	優先度A モニタリング	違反品の 回収及び 基準値の 見直し	配合飼料	LC、LC-MS 又はLC- MS/MS法 (飼料分析 基準)	○	50	50	
				主要穀類等			90	90	
DON	飼料	優先度A モニタリング	違反品の 回収及び 基準値の 見直し	配合飼料	(飼料分析 基準)	○	80	80	
				主要穀類等			90	90	
残留農薬	農産物	優先度A モニタリング	農産物に 使用され た農薬の 残留状況 を把握す るととも に、使用 状況及び 残留状況 を解析し て農薬の 適正使用 指導に資 する	米穀	「食品に残 留する農 薬、飼料添 加物又は動 物用医薬品 の成分であ る物質の試 験法につい て」(平成1 7年1月24 日付け食安 発第0124 001号厚生 労働省医薬 食品局食品 安全部長通 知)に定め る分析方法 又はこれに 準ずる方法	○	100	50	
				麦類			100	50	
				大豆			100	50	
				えだまめ			100	50	
				さやいんげん			0	100	
				だいこん(根)			100	50	
				はくさい			100	50	
				キャベツ			100	50	
				レタス			100	50	
				いちご			100	100	
				ピーマン			150	100	
				トマト			150	100	
				きゅうり			150	100	
				ほうれんそう			150	100	
				にら			150	100	
				こまつな			0	100	
				しゅんぎく			0	100	
				りんご			100	50	
				ぶどう			100	50	
				もも			100	50	
				みずな			150	0	
				みかん			100	0	
				合計			2,200	1,450	
	飼料	優先度A モニタリング	違反品の 回収、高 汚染時の アラート 発出及び 基準値の 見直し	配合飼料	GC、GC- MS、LC又 はLC-MS法 (飼料分析 基準)	○	395	370	
				乾牧草			55	55	
				主要穀類			100	75	
				その他の飼料原料			110	120	
総ヒ素	飼料	優先度B モニタリング	基準値の 見直し	稲わら	原子吸光法 (飼料分析 基準)	○	30(魚粉)	10	
水銀	飼料	優先度B モニタリング	違反品の 回収及び 基準値の 見直し	配合飼料	還元気化原 子吸光法	○	140	140	
				魚粉等			60	60	
鉛	飼料	優先度B モニタリング	違反品の 回収及び 基準値の 見直し	配合飼料	原子吸光法 (飼料分析 基準)	○	140	140	
				魚粉等			60	60	